

個人山行 比婆連山・道後山

2017年12月1日(金)～3日(日) 岡本

一度は行ってみたい所だったが、少し中途半端な印象もあり、中々行けなかった。11月に船通山へ行き、道後山や比婆山を眺めてみて、漸く重い腰が上がった。車中泊も疲れるので、前日出発し比婆山温泉で一泊して登ることにした。

12/2、8:00、ひろしま県民の森から出発。土曜日にも係わらず登山客は誰もいない。気温は氷点下3℃、地面は凍てつき、少し雪が残っている。県民の森から北西方向の出雲峠に向かってなだらかな登山道となっている。この真北が宍道湖になるので、昔は出雲に抜ける街道だったかもしれない。峠には避難小屋やトイレ・水もあり、キャンプにも適した場所だ。



峠から烏帽子山を目指す。この道もさほどきついところも無く40分程あるくと烏帽子山に着く。ここから吾妻山を眺め出発する。少し急なところもある坂を20分程下ると峠に着く。ここで少し休んで吾妻山に向かう。

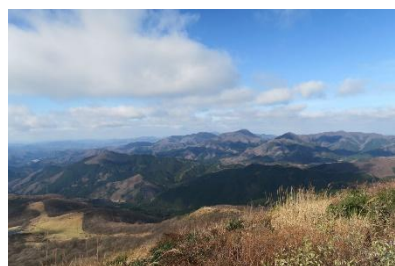


(出雲峠への道)

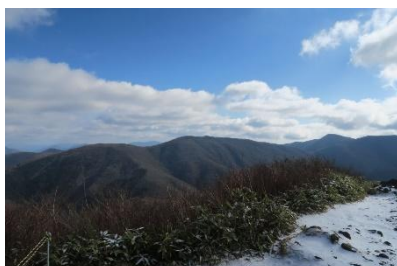


(烏帽子山から吾妻山)

途中、たたら製鉄の為、伐採され牧草地となっていた大膳原を通り抜ける。そこから少し急な坂道を暫く歩くと吾妻山の山頂だ。ここからは四方の展望が望め、比婆山方面も綺麗に見える。暫く休み今来た道に戻り烏帽子山へ向かう。今度は山頂手前から山頂を迂回し御陵へ向かう。この御陵が比婆山であるが、古事記にイザナミの神が眠る陵墓の聖地として信仰を集めた霊山らしい。が、樹林帯で展望は無く、標高も最高峰ではない。山頂付近もなだらかな道が続き、何処が山頂かもはっきりしない、少し中途半端な印象の山である。



(吾妻山から東北方向)



(吾妻山から比婆連山)

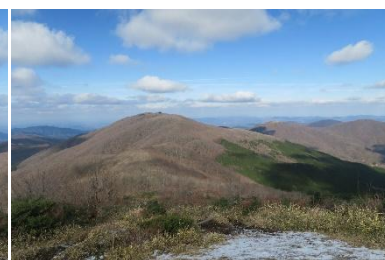


(比婆御陵山頂付近)

御陵から池の段に向かう。池の段は、比婆山連峰随一の展望地と解説書に書いてあり、期待して行く。少し下り登り返すルートだが、ここも険しいところはない。山頂に立つと解説書通り360度のパノラマが楽しめる。時々陽も射し気持ちの良いところで、ここで暫く休憩する。



(池の段から吾妻山)



(池の段から比婆御陵)

池の段山頂の真正面に比婆山の最高峰立烏帽子山があり、そこへ向かう。この山頂は展望も利かないのでそのまま通過し、少し下にある林道の駐車場まで行く。広い駐車場で、東屋やトイレもある。そこから、スタート場所の県民の森までは、なだらかな山道が続く。途中、展望園地があり、伊良谷山方面の景色を楽しみ下山する。

(8:00 登山口→8:30 出雲峠→9:10 烏帽子山
→10:20 吾妻山 10:30→11:25 御陵 11:45→
12:35 池の段 12:55→13:10 立烏帽子山→13:25 林道駐車場→14:10 展望園地 14:20→14:35 登山口)



(池の段から立烏帽子山)



(立烏帽子山山頂)

12/3、8:15、月見ヶ丘駐車場を出発する。日曜日にも拘わらず車は1台だけ、静かな山行を楽しむ。今日は昨日にも増してなだらかな山道が続く。最初、落葉した広葉樹林帯の中の道に行く。少し坂を登ると展望が開け、駐車場付近がよく見える。そこを過ぎると東屋があり、その先の分岐から岩樋山へ向かう。山頂付近は、笹はあるが四方、展望が開ける。かすかに大山も望め、中々の景色だ。正面に道後山が見えるが、標高は殆ど変わらない。



(登山道入口付近)



(途中から駐車場、車1台)



(真ん中中央に霞む大山)

ササ原を下り、少し行くと道後山と大池の分岐に出る。ぬかるむと困るので、道が凍っている間に大池へ向かう。この道は少し高い木に囲まれているため景色は殆ど見えない。直ぐに大池に着くが、少し大きい目の池塘と言ったところで、とても大池と言った代物ではない。そのまま進み道後山に着く。



(岩樋山から道後山)



(道後山大池)



(道後山山頂)

ここもササ原の中の山頂で、景色はよく見える。山頂は2つのピークに分かれていて三角点のある山頂が、もう一つの山頂より2~3m低い。少し休んでから、なだらかな山頂の道歩く。帰りは岩樋山を迂回するルートに行くが、2時間余りで往復できる。展望もよく、まあまあ感じの山である。

(8:15 駐車場→8:50 岩樋山→9:15 大池→9:30 道後山 9:45→10:25 登山口)